

試作成績からみた「タチユタカ」(だいず東北80号)の特性

長沢 次男・村上 昭一・酒井 真次・渡辺 巖

(東北農業試験場)

Characteristics of Tachiyutaka (Daizu Tohoku 80), a New Soybean Variety

Tsugio NAGASAWA, Shouichi MURAKAMI, Shinji SAKAI and Iwao WATANABE

(Tohoku National Agricultural Experiment Station)

1 来 歴

タチユタカは、昭和49年、東北農業試験場刈和野試験地において、ウイルス病抵抗性及び倒伏抵抗性を持つ良質・多収な品種の育成を主目標として、良質多収であるがウイルス病抵抗性が不十分な「房成」を母とし、強茎でウイルス病抵抗性が強い「刈系92号」を父として人工交配を行い、以後、選抜・固定を図ってきたものである。昭和56年には刈系200号、翌57年には東北80号の系統名を付し、以後関係機関において地域適応性を検定してきた。昭和62年6月にタチユタカ(だいず農林86号)と命名され、農林水産省登録品種となった。奨励品種採用県は秋田県及び山形県である。

2 各地の試験成績の概況

タチユタカにつき、2か年以上の試作を行ったのは、東北から九州に至る22県33場所にのぼる。これらのうち、東北、北陸における標準品種との収量比較を図1に示した。



図1 タチユタカの主要試作地における標準品種との子実重対比(%)

標準播きの収量比の平均が105%以上を示したのは6県6場所であり、同じく95~104%は16県23場所に及んでいる。これらの場所はほぼ北緯36°から40°の間に分布した。

この中で、成熟期、障害粒の発生程度、品質などについて問題が少なく、有望又はやや有望としたのは、大平洋側では岩手県南部、福島県及び栃木県であり、日本海側では秋田から福井に至る各県である。

3 育成地の試験成績

普通畑標準播き(以下、標準播きと略す)、転換畑標準播き(以下、転換畑と略す)の試験成績を表1上段に示した。

標準播きの開花期の平均は8月5日でオクシロメより3日遅く、シロセンナリより1日早い“中の早”に、成熟期の平均は10月20日でオクシロメより2日、シロセンナリより8日遅い“中の晩”に分類される。

主茎長はオクシロメ、シロセンナリよりやや短く、分枝数も少ない。蔓化・倒伏の程度はオクシロメより優れ、シロセンナリ並みの“強”である。

子実収量は、転換畑ではオクシロメ、シロセンナリよりそれぞれ17%及び13%多収であったが、標準播きではこれ等に2~3%及ばなかったことから転換畑に好適する品種であるといえる。

4 主要病虫害抵抗性

(1) ウイルス病抵抗性: ダイズモザイクウイルスA, B, C, Dの病原系統のいずれにも抵抗性を有し、ウイルス病の被害の多い場所でもほとんど被害が無く、褐斑粒の発生も認められなかった。スズユタカ並みの“強”と評価される。

(2) ダイズシストセンチュウ抵抗性: シストセンチュウの生息密度を高めた育成地圃場ではライコウ並みの“強”と評価されたが、特性検定(栃木県農試黒磯分場)では“弱”と評価された。このため当面“弱”として公表することとしたが、レースの問題も含めて再検討を要する点である。

5 子実成分と加工適性

(1) 子実成分: 粗蛋白、粗脂肪ともにシロセンナリより高く、それぞれオクシロメ並みの“中”に分類される。

(2) 豆腐加工適性: かたさ、色、舌ざわり(テクスチ

表1 育成地並びに主要な試作地における試験成績

試験場所	試験条件	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	分枝数	倒伏程度	収量 (kg/a)		同品左種 標対準比	百粒重 (g)	障害粒程度			品質	試験年次 (昭和)
								全重	子実重			紫斑	褐斑	裂皮		
育成地	標播	タチユタカ	8. 5	10. 20	63	1.9	無～微	44.1	22.3	97	24.8	微～少	無	無	中上	57～61
		オクシロメ	8. 2	10. 18	67	3.0	微～少	45.0	23.0	100	21.9	微	無	微	中上～中中	
		シロセンナ	8. 6	10. 12	68	2.5	無～微	43.2	22.8	99	23.4	微～少	無	無	中上～中中	
	転畑	タチユタカ			81	2.5	微～少	73.2	36.9	117	25.6	無～微	無	無	上下～中上	57～61
		オクシロメ			84	3.8	中	66.0	31.5	100	23.7	微	無	微～少	中上～中中	
		シロセンナ			88	2.8	中～多	62.4	32.7	99	24.7	微	無	無	上下	
岩手県南	標播	タチユタカ	8. 2	10. 19	88	3.6	少	89.1	33.3	128	27.3	無	無	無	上下	58～61
		ナンブシロメ	7. 27	10. 14	104	5.6	中	79.9	26.0	100	25.4	無	少	微	上中	
秋田県田	標播	タチユタカ	8. 3	10. 16	63	3.5	微～少	73.0	37.9	113	25.0	無	無	無	上中	57～61
		シロセンナ	8. 3	10. 11	71	3.6	少	63.0	33.5	100	25.4	無	無～微	無～微	上中～上下	
山形県農試	標播	タチユタカ	8. 2	10. 15	68	5.3	無～微	67.3	31.3	99	28.3	無～微	無	無～微	上下	56～61
		スズユタカ	8. 2	10. 20	76	6.3	中	72.1	35.2	112	28.6	微	無	少	上下	
		オクシロメ	7. 29	10. 16	75	5.1	中～多	63.6	31.5	100	26.3	微	微	中～多	中中～中下	
新潟県農試	標播	タチユタカ	7. 24	10. 4	59	3.2	微	55.6	28.0	103	23.6	無～微	無	無	上下	57～60
		エンレイ	7. 21	10. 11	68	3.8	微～少	55.7	27.1	100	31.8	無～微	微	無	上中～上下	
石川県農試	標播	タチユタカ	7. 23	10. 7	69	3.0	微	84.1	43.2	105	25.8	無	無	微～少	上下	57～61
		エンレイ	7. 20	10. 6	80	3.9	微～少	80.5	41.2	100	31.7	無	微	微～少	上下～中上	

表2 豆腐加工適性(秋田県譲造試験場)

品種名	豆腐							
	硬さ (g/cm ²)	色価 (L値)	官能試験					総合評価
			外観	色	臭	味	テクスチャー	
タチユタカ	52.3	82.5	1.02	0.88	0.59	0.43	0.68	0.55
シロセンナ	34.9	81.4	-0.45	-0.18	-0.09	0.36	-0.18	-0.09
スズユタカ	59.2	82.4	1.73	1.18	1.09	1.00	1.00	1.27

注. 1. 豆腐: 硬さはGDL 0.3%添加時の値。L値が高いと白く鮮やかである。
 2. 官能試験: 11人のパネラーによる5段階評価(-2, -1, 0, 1, 2)の平均値。
 3. 試験年次: 昭和61年。原料大豆は昭和60年秋田県産。

ヤー), 臭等の形質でシロセンナリより優れ, 総合評価もこれより優れる。しかしスズユタカには及ばなかった(表2)。

6 総括

東北地方中部以南及び北陸地方全域に適する“中の晩”生種である。倒伏抵抗性が極めて優れ, 管理・収穫作業を行いやすい上に難裂莢性なので機械化適性が高い。

シストセンチュウ抵抗性は無いが, ウイルス病抵抗性はスズユタカ並みに強いので, 特にウイルス病の多発地における普及が期待される。外観的品質はもとより豆腐加工適性も優れる。

栽培上の留意事項は①シストセンチュウに対する抵抗性が無いので連作を避ける。②分枝数が少なく, 倒伏しにくいので密植により増収を図る。③成熟期の年次変動が大きいので晩播限界に注意する等である。